

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和6年度 東中だより 第6号	発行日	令和6年6月12日
教育目標	新しい多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【進路説明会】

6月5日(水)に、3年生の保護者対象に進路説明会を開催しました。今回の進路説明会は2本立てで実施しました。第一部は、箕面学園高等学校の田中校長先生から、進路選択の心得や私立高校を選ぶときのポイント、その際、見ておいた方がいいことなどを多岐にわたってお話いただきました。第二部は、本校の進路担当から、令和7年度入試に向けた進路指導の流れと今年度の入試制度などをご説明させていただきました。田中校長からいただいたお話に、「子どもが自らの生き方について、当事者意識を持って主体的に決めていく、人生で初めての自己決定の場が高校受験である」という話がありました。子どもたちが、自らどのような未来に向っていくのか、どのように努力をして、目標を達成していくのかを考える力を身に付ける一つの過程が高校受験です。

近年の高校教育は、多様な学びや進路のニーズに対応するための各校の「特色化」が推進されています。そのため、各高校は、それぞれの特色を象徴する「学科」「コース」「類型」「学系」などを設置し、従来の「学年」「学級」に混ぜ込む形で高校の特色を打ち出しています。また、多くの学校が「共学校」にもなっています。一方、近年はネット出願を実施する学校が増え、ネット環境も整っています。検索すると、高校の様子や特色が具体的にわかるようになっていきます。加えて、積極的に数多くの高校のオープンスクールに行くこともお勧めします。



高校や大学に入学した後、学ぶ意欲をなくしてしまった生徒や学生がいるということを聞くことがあります。原因は明確です。高校や大学に入学すること自体が目的となり、目的を達成した後には何をどのように学びたいのかを考えていないからです。偏差値や人気のある高校や大学に入学したい気持ちはわかります。しかし、最も大切なことは入学後に何を学びたいのか、何がしたいのか、その後、どのような未来、人生を歩んでいきたいのかが重要です。高校や大学は、体系的にしっかりとカリキュラムが組まれています。

入学後にどのようなことを専門的に学びたいのか、どのようなことに魅かれるのか。志望校を決定する際に、そのイメージを膨らませてください。決して、「(成績に基づいて)行ける高校」ではなく、「(自らの夢や希望を叶えるための)行きたい学校」へと進路選択にしてもらいたいと思います。そのためにも、しっかりと勉強に打ち込んでください。

保護者のみなさまは、子どもが持っている個性を見抜いて、どの学校に進めば、子どもの良さを引き出してあげられるのかなどを考えてあげてください。なお、高校や大学が求めているのは、主体的な学びです。自身の好きなこと、興味のあること、関心のあることを徹底的に学んでもらいたいと思います。

なお、第2回進路説明会は10月17日(木)に開催します。その際は、関西大学第一高等学校と市立伊丹高等学校の両校の校長先生をお招きしてお話をいただき、その後、本校の進路担当から、進路決定についてのご説明をいたします。

【部活動の地域移行】

令和6年5月に伊丹市教育委員会から、「今後の部活動のあり方」について方向性が示されました。原則、令和8年度中に平日休日同時に学校部活動(運動部、文化部)を地域クラブへ移行するという内容です。この背景には、生徒数の減少及び、それに基づいて大会などに出場できずに運営が困難な部活動や、教員の時間外勤務の改善があげられます。今後、市教育委員会は、各小学校などにおいて説明会を開催されます。部活動の地域移行が進んでいきますが、今後も学校、家庭、地域が連携して、子どもたちが生き生きとスポーツや文化活動などに取り組むことができるよう環境整備を行ってまいりますので、部活動の地域移行についてご理解いただきますようよろしくお願いいたします。



【スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー】

各学年の1学期の大きな行事である修学旅行、トライやる・ウィーク、林間学舎が終わりました。すべての行事は、子どもたちにとって実りのある充実したものとなりました。ただ、例年、大きな行事を終えた後に、今まで取り組んできたものなどがなくなり、登校渋りや不登校になる子どももいます。

昨年度の文部科学省の調査によると、不登校児童生徒数は過去最多となっており、これは全国的な課題となっています。また、不登校の要因は、小中高校のどの校種においても「無気力や不安」が半数を占めており、児童生徒の発達段階に応じて、「豊かな心」を育てていくことが大切であると専門家は分析しています。また、学校行事や部活動などがコロナ禍のために制限されたことで登校する意欲が湧きにくい状況があったことや、「感染への不安」などから「学校を休む」ことに対するハードルが低くなったことなども不登校児童生徒が増加した原因であると言われています。

さらに、コロナ禍により、人と人の距離が広がった中、不安や悩みを相談できないでいる子どもがいる可能性があることや、子どもたちの不安や悩みが従来とは異なる形で現れたり、一人で抱え込んだりする可能性があることに考慮する必要があるとも指摘しています。

本校においては、毎週、教育相談会議を開催して対応策を検討したり、適宜、子どもたちには教育相談や家庭訪問を実施したりしています。また、基本、火曜日にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家が来校して、生徒や保護者(保護者のみでも可)に対応していますので、ご相談やお話を聞いてみたいなどのご希望がありましたら、担任までお申し出ください。

